

令和元年度 第1回宗像市次世代育成支援対策審議会議事録

期 日：令和元年7月23日（火）

時 間：18時00分から19時50分

会 場：宗像市役所103B会議室

◆出席者

【審議会委員】

田中 敏明	○	大重 育美	○	大和 寿美	○
小方 信二	欠	衛藤 蔦子	欠	高杉 洋史	○
薄 俊哉	○	松井 安彦	○	清水 満	○
家永 志おり	○	吉永 敦子	○		

【宗像市】

本田 和徳 (子ども育成課長)	賀来 元彦 (子ども育成課参事)	早川 ちさと (子ども家庭課長)	高倉 庸輔 (子ども支援課長)
本田 康浩 (子ども育成係長)	永島 夕子 (幼児教育係長)	瀧口 啓太郎 (幼児教育係長)	船越 健樹 (グローバル人材育成係長)
有吉 富美子 (子ども支援課 主幹兼子ども相談係長)	姫野 恵理子 (子ども支援課 発達支援係長)	橘 正代 (幼児教育係企画主査)	森 由紀子 (子ども育成係企画主査)

【オブザーバー】

株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所 九州支社 平方皓一朗

◆資料

(事前送付)

①「子ども・子育て支援事業計画」実施状況（事業評価一覧表）

(当日配布)

【資料①】「宗像市子ども・子育て支援事業計画」の進行管理について

【資料①-2】 宗像市子ども子育て支援事業計画体系表

【資料②】第2期宗像市子ども・子育て支援事業計画 骨子案

【資料③】教育・保育の「量の見込み」推計資料

【資料④】教育・保育事業と地域子ども・子育て支援事業の「量の見込み」(案)

【資料⑤】第2期宗像市子ども・子育て支援事業計画等策定スケジュール

1 あいさつ（田中会長）

2 審議会について

(事務局より) この審議会では「子ども・子育て支援法」第77条第1項に規定する事項に関することを事務としており、子ども・子育て支援事業計画を定めたり変更しようとしたりするときは、この審議会の意見を聴くこととなっている。今日は第1期計画の30年度進行管理及び5か年の評価と第2期計画策定の(計画案骨子案について) ご意見を頂戴したい。

3 審議事項

(1)「宗像市子ども・子育て支援事業計画」の進行管理について【資料①】

①平成30年度進行管理

【資料①-2】

②5か年の評価について

(事務局より) 現在計画に掲げている中で、重点施策となっている事業を中心に説明。また、平成30年度の進行管理と5か年の評価について並行して説明。評価について、数値目標に対する実績で事業と、実際の事業内容の実績で評価している事業がある。以下、事前配布資料をもとに説明。

【委員】数値目標が書いてない事業はどういった意味があるのか。

⇒【事務局】第1期計画を策定したときにたてた目標だと思うが、数値目標をたてにくい事業ではないかと思う。

【委員】必ずしも数値目標で図れないものもあるかと思う。例えば、事業No.4:「子どもまつり事業」では、子どもたちの自主的な活動で運営され効果が出ていると思う。次の計画では、そういった面も図れるような指標を盛り込んでもらえたらと思う。また、事業No.9:「教育相談事業」ではスクールカウンセラーとスクールソーシャルワーカーの相談対応件数以外の、教育相談員が対応した事案に対する解決率になっている。次期計画では、このような指標も検討して頂きたい。

⇒【事務局】第1期計画当初の指標をそのまま5年間使用してきたため、第2期計画時は指標の内容も含めて検討していきたい。

【委員】事業No.1:「子どもの居場所づくり事業」(コミュニティ関係業務)で月1回程度のイベント等内容は?

⇒【事務局】各地域で内容は異なるが、宿泊研修(赤間・池野)、どろりんぴっく(河東)、わくわく広場(自由ヶ丘)、アンビシャス広場(南郷)など行っている。また、高齢者の方から昔遊びを教えてもらっている地域もある。

⇒【委員】令和元年度の目標値が6000人となっているが、これは、計画当初からの数字がそのまま残っていると考えて良いか。

⇒【事務局】その通りである。

【委員】グローバル人材に関する事業で、宗像市はニュージーランドやカナダなど英語圏をメインにしてグローバル人材育成の場と考えているのか?

⇒【事務局】決して英語圏だけという訳ではない。グローバル人材育成プランの中で、「そうぞう」(ひらがな表記)を「創造」(クリエイティブな)「想像」(イメージする)「宗像」とうたっており、外国語だけができる子だけではなく、お互いを尊重できる、地元の事もわかっている、他者とコミュニケーションが取れるなどを目的としている。また、ニュージーランド研修は以前から続いている研修であり、カナダ研修は宮若市とトヨタ自動車九州との連携事業でトヨタのカナダ工場の見学が入っているためである。

【委員】目標値に達成していてもB評価の事業もあれば、パーセンテージだけみればC評価ではないかと思う事業もある。評価基準は100%超えないとA評価にはならないが、目標設定値が100%だとそれ以上になることはないものもあると思うが。

⇒【事務局】数値目標に対する実績で評価している事業と実際の事業内容の実績で評価している事業とある。評価は各課で行ってもらいその後ヒアリングを行った。計画当初の目標値をそのまま5年間引き継いでいるので、次期計画では、目標設定も精査したいと考えている。

(事務局より) 第1期計画の総括(評価)を説明

⇒承認する。

(2)「第2期宗像市子ども・子育て支援事業計画(案)」について【資料②】

(事務局より説明)「第2期宗像市子ども・子育て支援事業計画」は「第2期宗像市次世代育成支援対策行動計画」「第2期宗像市子ども基本条例行動計画」「第2期宗像市子どもの未来応援計画」も兼ねている。今回は、文章の中身ではなく、計画の骨子についてのご意見を伺いたい。章立ては目次にあるように第5章までとしている。基本方針は「子ども」「家庭」「行政・社会」の3つの視点で、基本理念は「子ども・子育て支援法」「次世代育成支援対策推進法」「宗像市子ども基本条例」の目的を踏まえ「子どもの健やかな育ちが守られるまち むなかた」としている。

【委員】第1期と第2期の内容で似ているようで違う。なぜ基本方針のつくりを変えたのか。

⇒【事務局】第1期計画でカテゴリー分けがおかしいと感じる事業があったので、今回は、「子ども(子ども支援)」「家庭(子育て支援)」「行政・地域」の視点で分けた。

【委員】第1期計画の基本理念で「子どもの未来」とあるが第2期は「健やかな」と変わっているが議論があつて変えたのか。

⇒【事務局】「子どもの未来」では良い未来なのか悪い未来なのか分からないとの意見があり変えた。この計画の根拠法令(子ども・子育て支援法、次世代育成支援対策推進法、宗像市子ども基本条例)に「健やかな」のフレーズが使われているため使用した。

【委員】この「健やかな」のフレーズには障がい者の発想はどれくらい入っているのか。

⇒【事務局】障がい者であっても「健やかな育ち」の表現は使ってもよいと考えている。すべての子どもに「健やか」な育ちはあると考えている。

【委員】第1期で「未来」と付けたのは、「子どもの未来応援計画」を策定したからではないか。

⇒【事務局】「宗像市子どもの未来応援計画」は、第1期計画策定後の計画である。

【委員】「社会全体で子育て」となると、社会的養護の概念(里親支援、児童相談所など)と誤解を招きそうな感じがする。

【委員】第1期、第2期のカテゴリー(事業)対比表があれば、事業の推移がわかりやすい。

⇒【事務局】次回の審議会第4章(計画の内容)をお示しできたらと考えている。現在の事業を精査し、また、新たな事業があればどのカテゴリーに入るかなどお伝えしたいと考えている。

【委員】第1期の基本方針で「まちづくり」としていたのが第2期で「まち」と表記した意図を知りたい。

⇒【事務局】「まちづくり」の作っていく過程ではなく、「まち」と目指すものと考えている。

【委員】宗像市の特徴は、自然環境が豊かなところだと思う。一般論として、宗像市の特徴である自然環境の良さが計画に入っていないのは寂しく感じる。

⇒【事務局】体験活動は重要だと考えており、身近な自然を利用した体験活動が可能なまちであることを認識し計画に活かしていきたい。

【委員】沢山の事業の中で「子育てがしやすいまち」へどれだけの評価に繋がっているのか見てみたい。

⇒【事務局】「子どもの未来応援計画」を策定する中で、保護者の幸福度を聞いた

ところ、平均8.07点と高い点数だった。満足度は高いと評価している。

【委員】満足度について他市と比較することはできないか、県の審議会で提案してみようと思う。

【委員】今後、特別な支援や配慮が必要な発達支援と同時に、外国籍の子どもと保護者への支援が必要になってくると思う。

⇒【委員】ふらこっこでは外国籍の方は増えている。

⇒【委員】宗像市では増える要因はまだないが、福岡市・北九州市では中国・韓国やネパール、ベトナム、アラブ系が増加している。英語は通じない。

⇒【事務局】計画の背景、課題への位置づけが必要になってくると思う。

【委員】宗像市では多文化共生センターを設立する予定はあるか？

⇒【事務局】このような課題は、宗像市でも少なからずある。宗像地域国際交流連絡協議会を立ち上げており、留学生の支援とともに在留外国人への日常的な通訳のボランティアを始めてみようかと考えている。幼児教育や学校生活等へも拡充できたらと考えている。

【委員】「子どもの未来応援計画」(P7)でも、ひとり親世帯の幸福度は平均6.73点で低い。ニーズ調査の結果(骨子案P31)で子育て環境の満足度の「どちらでもない」との回答は「満足ではない」と考えると、第2期計画の内容に盛り込むということで良いか。

⇒【事務局】第2期でも引き続き事業を行っていく予定である。

(3) 教育・保育の量の見込みについて【資料③】【資料④】

(事務局より説明) 教育・保育事業は、割合としては増えていくことを想定して、人口推計と掛け合わせていく考えでニーズ量を算出したい。(【資料④】緑の線を採用する。) 地域子ども・子育て支援事業は、ニーズ調査の結果から目標数値を設定する。事業自体行っていないものもあり、市民のニーズを具現化することも市の役目だと考えている。

【委員】骨子案の中の、「量の見込み」「確保方策」「受入実績」の文言の解釈と数値の乖離を教えてほしい。

⇒【事務局】「量の見込み」はニーズとして見込まれる数値、「確保方策」はそれに対して供給の受け皿の数値、「受入実績」は実際の実績。

【委員】5年先の推計が出ているが、その先はどうなっていくかの見通しも必要なのでは。このまま増え続けるとは考えられない。

⇒【事務局】頭打ちをどこかで設定する考えも事務局内では出ている。今後女性の就業率を80%にあげるとの話もあるので、今後5年間では頭打ちは起きないものと考えている。

【事務局】今回は、量の見込みの考え方をお示しした。次回は、確保方策を承認いただけたらと考えている。

⇒承認する。

4 その他

今後のスケジュールについて【資料⑤】

(事務局より説明) 次回は9月を予定している。骨子案について、8月末くらいまでに内容に対するご意見があれば伺いたい。

